高齢者福祉

銀山地域づくり研究会

仁木町

１．設立のきっかけ

平成25年度に国土交通省国土政策局地方振興課が所管する「雪処理の担い手確保・育成のための克雪体制支援調査」に関わる取り組みで、仁木町が管内で雪の比較的多い銀山地域をその調査対象地域に選定しました。この調査を受けた活動の主体として、地域の有志で構成されていた「銀山コミュニティ推進協議会」を母体に新たに「銀山地域づくり研究会」を発足させたのが始まりです。銀山地区は、社会福祉法人の施設等が立地していることもあり、様々な地域活動を積極的に展開しています。一方、過疎化・高齢化が急速に進み、将来の雪処理の担い手不足が懸念されており、その対応策が求められていました。

町内外の除雪ボランティアの組織づくりとその交流、冬季のイベント開催等により、子供から高齢者、地域内外の人が集まり、共に雪を楽しみ、雪を知り、子供たちは除雪体験等により雪と親しむことに関心を持ち、将来の雪処理の担い手となることを期待して種々の活動を推進するために発足しました。

２．組織形態・構成員

［研究会構成員数］約25名
（うち座長１名、副座長１名、事務局長１名、会計１名、監事１～２名）。
研究会発足時から、小樽商科大学（大津教授ゼミ）の学生と連携しています。

３．現在の活動内容

発足初年度の平成25年度から「白銀物語」と称して、地域住民参加のイベントを開催しています。初年度は役場主導での実施でしたが、２年目からは研究会に実施主体が移管されています。白銀物語は、除排雪と交流イベントを同時に実施するという１日または２日間にわたるイベントです。地域内での世代間交流、および地域内外の交流を深めることと除排雪問題への関心を高めることが目的で、高齢化による除排雪問題の悪化へ備えたイベントといえます。

交流イベントとしてはランタンづくりや餅つきなどをしています。紙袋を利用したランタンづくりは参加者が直接的に関われるため、参加している実感を強く感じられる活動となっていました。

地域外から小樽商科大学の学生がイベントへ参加することで地域内外の交流になっていますが、それだけではなく、学生がいることで地域内の住民同士の交流をより活発にする役割も果たしていました。

３．現在の活動内容（つづき）

白銀物語のスケジュール（第２回実施時）

【１日目】
高齢者ヒアリング：除雪を始めとする地域課題の聞き取り
ランタンづくり　：紙袋をつかったランタンを参加者が作成
餅つき
ランタン点灯
夕食
（地域外からの参加者は宿泊）

【２日目】
高齢者宅の除雪活動
カルタ大会

４．活動資金

活動資金については、町からの補助金が、当初５万円、2016(平成28)年度より30万円、2019(令和元)年度には20万円となっています。その他は自己資金で運営しています。

５．活動を続けていてよかったこと

研究会活動により、地域、世代を超えた交流が図られ、雪への関心も高まったと感じています。

６．今後の目標・見通し・課題

研究会活動は令和元年の第７回まで開催後、現在休止中で、活動資金の課題や、コロナ禍での大学生の状況、座長も交替していることもあり、今後の研究会活動継続に向けた協議が必要と考えています。

また、これまでの活動では、打合せの会議が年間複数開催されていましたが、日中に仕事のある人は会議や行事当日の参加が難しくなってきています。同様の取り組みは地域内に30～50代の人が比較的多くいる地域では実施可能と思われますが、高齢化が進んでいる地域では、実施が難しいと考えています。

・国の調査事業を契機にした、雪処理の担い手確保の取り組みを、近隣の大学との連携で進めていたユニークな事例であり、コロナ禍、物価高、過疎化の状況下での進化を期待したい。

高齢者福祉

ＮＰＯ法人　絆の郷しもさほろ

清水町

１．設立のきっかけ

平成17年３月に下佐幌小学校が閉校となりました。その年８月に同校を卒業生によるクラス会の際、閉校した母校の活用について議論となり「福祉施設として活用できないか」「私でよかったら手伝う」といった声が挙がり、同年10月に町とも相談の上、法人を設立すべく準備をすることになりました。法人設立にあたり当初資金調達に苦労しました。協力者はそれぞれ老後の備えがあったため、そのお金を借りることを提案し約1,400万円が集まりました。その後も何もわからないので皆で勉強する日々が続きました。そして平成19年１月４日、法人としてスタートすることになりました。

２．組織形態・構成員

［役員］：理事長１名、副理事１名、理事３名　計５名
［職員］：正職員27名、準職員28名
［資格（重複あり）］：看護師・準看護師６名、ケアマネージャー２名、介護福祉士12名、防火管理者１名、調理師２名、介護福祉士実務者研修修了者・介護福祉士初任者研修修了者７名、無資格者26名

３．現在の活動内容

大部分の事業所が旧小学校敷地内にあります。

【小規模多機能型居宅介護事業所「さくらさくら」】
［利用者］：17名（令和４年11月現在）　［職員］17名（令和4年11月現在）
平成19年１月開設、旧下佐幌小学校校舎を利用
基本的にデイサービスを中心に、訪問介護を加え、時には宿泊も可能
要支援者の利用料は利用回数に関わらず一定としています。

【訪問介護事業所「さくらさくら」】
平成23年４月開設
小規模事業所で在宅介護の一環として数件の訪問介護を行ってきたが、限界を感じ思い切って訪問介護事業所を立ち上げました。
［利用者］：22名（令和４年11月現在）
［職　員］：３名（令和4年11月現在）

［写真］施設の外観

３．現在の活動内容（つづき）

【認知症対応型共同生活介護事業所「さくらさくら」１号棟及び２号棟】
認知症の方たちが共同生活をするグループホーム
１号棟：平成25年４月事業開始　２号棟：令和４年５月事業開始
共同生活によってその進行を抑え、一人一人が持てる力を出し合い出来るだけスタッフと共に共同で生活しようというのが、この事業の目指す方向です。
［利用者］：１号棟、２号棟それぞれ９名　計18名（令和４年11月現在）
［職　員］：１号棟11名、２号棟10名（令和4年11月現在）

【認知症対応型通所介護事業所さくらさくら】（町中心部に所在）
平成27年４月事業開始　認知症の方へ対応するためのデイサービス
各個人の希望を尊重し、その日の利用時間の長さを５つの選択肢の中から体調などに応じて選択できるようにしています。認知症の方を対象としていますが、デイサービスでの受入が可能かどうかは医師の助言を受けて決定しています。
［利用者］：17名（令和４年11月現在）　［職員］：10名（令和4年11月現在）

４．活動資金

利用料金の中で収支を合わせた活動をしています。
施設の建設資金に道より半額助成の補助金を受けました。
（令和３年　認知症対応型共同生活介護事業所２号棟）

５．活動を続けていてよかったこと

町内での受入施設は不足しており、本人はもとよりご家族の事を考えるとやりがいを感じます。このような施設もないと住民が町から離れていってしまいます。その使命感を従事していて感じます。

６．今後の目標・見通し・課題

今後も介護福祉士資格取得に全職員が挑戦出来るよう支援を続け、半分以上が介護福祉士の資格を持つ事業所としたいです。これにより質の高い介護が出来るようにし、他の事業所との差別化にもつながっていくと考えています。毎月の職員研修を重ね、介護の基礎を身につけています。人手の確保が大きな課題で、一つの対応策として定年制をなくしています。
・地域住民自らが積極的に施設開設に向けた活動を進めていった事例です。約15年の活動の中で町内での受入施設が少ないこともあり事業規模は拡大してきましたが、現在のネックはスタッフの人で確保になっており、法人の努力だけでは対応が難しい段階に至っています。

高齢者福祉

ＮＰＯ法人　ひだまり

浦幌町

１．設立のきっかけ

平成28年に介護経験者の有志数人で、高度で良質な地域密着サービスの提供ができないか行政と協議を開始しました。その後、先進施設などを視察、調査、研究し、地域福祉の推進に寄与する組織の必要性、目的、事業内容などについて検討しました。浦幌町での介護予防・生活支援サービス事業の実施に対して町の許可がおり、平成28年12月に法人を設立しました。病院だった施設を借上げ、町の助成でリフォームを行い、翌29年９月にサービスの提供の拠点施設として開設する運びとなりました。

２．組織形態・構成員

［役員］：理事長１名、理事３名、監事１名
［社員］：12名（賛同者）

３．現在の活動内容

【地域福祉交流事業】
コミュニティカフェ「ふれあいサロン」を開設しています。
喫茶店のイメージで誰もが気楽に立ち寄れる集いの場づくりを行っています。
［営業時間］週３日の実施（月、水、金）。
［利用者］：高齢者、障害者、児童が中心
（令和3年 年間延べ利用者数1,407人）
［メニュー］コーヒーと手作りのお菓子のセット
（300円　小学生以下は無料。）

［写真］ふれあいサロン

【介護保険外地域福祉事業「友愛訪問サービス」】
日常生活に支援が必要でありつつも、介護保険サービスを利用していない高齢者世帯、障害者世帯を対象に直接訪問により安否確認と状況の聞き取りを行っています。
［実 施 日］：週３日（月、水、金）
［対象地域］：浦幌町全域
［利 用 者］：高齢者、障害者18名　年間延べ168 回訪問（令和３年度実績）。
職員1名が訪問に回っています。1名に対し年間2回までは町からの受託事業として実施しています。（１回あたり委託料1,000円）

３．現在の活動内容（つづき）

【地域福祉運送事業「交通空白地有償運送業務」】
通院など日常生活に必要な用務を反復継続して行う必要がある方々の運送の手助けを行っています。背景として町内のタクシー会社がなくなり町民の移動手段が困窮していることがあります。

［実 施 日］：週３日　月・水・金
［対象地域］：浦幌町全域
［利 用 者］：のべ1,285人（令和３年度実績）。通院および買い物での利用が主
［料金水準］：タクシー料金の半額以下

４．活動資金

［支出］：コミュニティカフェと友愛訪問サービスの事業費　約600万円
　　交通空白地有償運送業務の事業費（経費）　約260万円。
　　→どちらも令和３年実績。
全体で何とか収支均衡の状況。

５．活動を続けていてよかったこと

地域住民の皆さんに喜んでいただけている事、コミュニティカフェでの子供達の笑顔や友愛訪問サービス利用者やご家族からの感謝の言葉をもらうと続けていて良かったと思うし、やりがいを感じます。

６．今後の目標・見通し・課題

［目標］：今後も継続していくこと
ほとんどボランティアの皆さんのおかげで運営できています。しかし、ボランティアの皆さんも70歳代の方々であり高齢化の課題があります。また、設立当初は想いも熱く、理解者も多いのですが、それを継続させることが重要と考えています。運営側の高齢化対策（後継者の育成）、地域の理解者の熟成に今後の事業継続がかかっています。

・ほとんどボランティアによって活動が行われています。地域住民のために、地域の暮らしやすさのために誰かがやらなくてはといった熱意で取り組んでいますが、そのため後継者育成がもっとも大きな課題となっています。